

2. 成果・実績等について（鹿児島大学トピックス）

1. 大学運営関係

(1) 鹿児島大学 × SDGs

「進取の精神」で持続可能な社会づくりに挑戦する

鹿児島大学は地域社会、我が国日本ならびに国際社会に貢献し、本学の全構成員、卒業生、地域が誇りとする進取の気風あふれる総合大学として“南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点・鹿児島大学”となることを目指しております。

地域とともにある鹿児島大学は、南九州の「知（地）の拠点」として、これまで蓄えてきた教育研究活動の成果、また進行形で実施している様々な教育研究活動や取組から生まれる様々な分野における「知の力」を、今後も惜しみなく発揮し、本学の教職員のみならず、学生および本学関係者一丸となり、「オール鹿大」でSDGs達成の推進に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献したいと思っております。



鹿児島大学SDGs
特設サイト

鹿児島大学×SDGs
事例集デジタルブック

(2) 「THEインパクトランキング 2023」総合ランキング 国内17位、SDG17国内3位獲得



イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE: ティー・エイチ・イー)」が「THEインパクトランキング2023」を発表しました。鹿児島大学は今回初めてエントリーし、総合ランキングで301-400位（国内17位）にランクインしました。

また、SDG別ランキングでは本学はSDG2、SDG3、SDG9、SDG14、SDG15、SDG17の6つの目標にエントリーし、SDG17〈パートナーシップで目標を達成しよう〉で世界85位（国内3位）という高い評価を得ました。

今後も鹿児島大学は教育や研究を通じ、「オール鹿大」でSDGs達成の推進に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。



(3) 「就職力ランキング」九州・沖縄地区2位「大学の取り組みランキング」全国1位獲得

日経HRと日経新聞社が公表した企業の人事担当者から見た大学イメージ調査「就職力ランキング」で、鹿児島大学が九州・沖縄の総合ランキングで昨年の5位から2位（全国では15位）に浮上しました。同じ調査の「採用を増やしたい大学ランキング」でも、全国で2位と高い評価を受けています。

本学卒業・修了生は、「行動力」と「独創性」の得点が高く、企業の人事担当者から「人間力が高い印象を受けている」と高評価でした。

また、「大学の取り組みランキング」の総合ランキングで全国1位を獲得しています。



(4) 日本経済新聞「大学の地域貢献度調査」で総合5位



日本経済新聞社が全国765大学（回答518大学）を対象に行った「大学の地域貢献度調査2023」の結果が日経グローバル（11月6日発行号）で公表され、鹿児島大学は前回（2021年）の総合7位から総合5位に順位を上げました。分野別ランキングでは、「組織・制度」が51位、「学生・住民」が2位（国立大学1位）、「企業・行政」が9位、「SDGs・グローバル」が1位という高い評価を得ました。



(5) SDGsシンボルマーク・キャッチフレーズ

今回選定されたSDGsシンボルマーク・キャッチフレーズは、「進取の気風あふれる総合大学として“南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点”を目指す鹿児島大学において、教職員や学生が一丸となって、「オール鹿大」でSDGs達成に向けた取組を推進していくことをイメージした作品」として、本学教職員及び学生に公募を行い、シンボルマーク47点とキャッチフレーズ81点（有効応募数）の応募の中から決定した作品になります。



キャッチフレーズ：カダイから ミライをつくる



2. 社会貢献・社会連携関係



(1) 大崎町との包括連携協定を締結



鹿児島大学と大崎町は、平成23年6月に締結した「大崎ものづくり会館の施設使用に関する協定」を発展させ、それぞれの資源や機能の活用を図りながら、より幅広い分野で相互に包括的に連携協力して地域社会の活性化に寄与することを目的として包括連携協定を締結しました。学長より「ごみのリサイクル率日本一を14回達成する「大崎リサイクルシステム」を確立している大崎町との協定締結を機にSDGs達成に向けた全学的な取組を加速し、持続的な社会の実現に貢献していきたい」との決意が述べられました。



(2) 鹿児島市地区別防災研修会講演



鹿児島市の依頼を受けて、地頭菌地域防災教育センター長及び寺本調査研究部門長が、「風水害に備える～地域で取り組む防災活動のヒント～」と題して平成5年鹿児島豪雨災害を振り返りながら、土砂災害が起こる仕組みや災害に備えるための防災マップの活用、防災活動のヒント等について講演を行いました。

地域防災力の向上のため、地域に出向いて、災害の発生する仕組みをはじめ防災・減災の知識を講演会やセミナーなど様々な形で地域住民に伝える活動を展開しています。センターでは、皆様からのご相談をお待ちしております。



(3) 「8.6水害から30年、改めて備えについて考える」講演会



地頭菌地域防災教育研究センター長から「8・6水害から30年～土砂災害に備えよう」と題した講演がありました。、防災リーダーの育成や防災意識を向上させることの重要性を強調していました。



(4) 南九州畜産獣医学拠点運営に関する協定締結



令和6年4月の南九州畜産獣医学拠点運営開始を前に、継続的な教育・研究の充実や人材育成、交流人口の創出のために「曾於市と国立大学法人鹿児島大学との南九州畜産獣医学拠点運営に関する協定書」の調印式を実施しました。本学では、南九州畜産獣医学拠点の開設に先立ち、令和5年9月1日に共同獣医学部附属南九州畜産獣医学教育研究センターを設置し、動物の福祉・健康の適正な維持管理、農場衛生・経営に関するコンサルテーション及び地域獣医療の高度化等により畜産獣医学の教育研究と地域の活性化に貢献するための取組を進めていきます。



(5) 防災・減災ワークショップ開催



ハザードマップづくり

黒光准教授、齋田准教授、酒匂教授の3名が、「リビング防災・減災プロジェクト」に参加しました。行政や防災関係機関、鹿児島大学と連携し関係小学校の協力を得ながら、家族や地域の防災力の向上を図るために実施されるもので、当日は小学5・6年生や保護者が、近隣住民のみなさんや大学生のサポートも受けながら、自然災害から身を守る術について学びました。



(6) 令和5年度レジリエント社会・地域共創シンポジウム開催



令和5年度レジリエント社会・地域共創シンポジウム「地域共創による災害に強いまちづくりを考える in 薩摩川内市」を開催しました。県内外の一般市民、学生、自治体や防災関係機関などから計177名の方々にご参加いただきました。



(7) 「薩摩川内市を中心としたサーキュラーエコミ-実証事業の推進に向けた連携協定」締結



本学と九州電力株式会社、サーキュラーパーク九州株式会社及び薩摩川内市の4者は、薩摩川内市を中心に行う循環経済と脱炭素化の推進による持続可能な社会の構築を目指す事業（サーキュラーエコノミー実証事業）の実施に関して、4者がそれぞれ保有する資源を活用し、連携協力して具体的な取組を推進することを目的として、協定を締結しました。



(8) 鹿児島地方気象台と包括連携協定締結



地域防災教育研究センターと鹿児島地方気象台は、自然災害から県民の生命や財産を守り、防災・減災に貢献することを目的として包括連携協定を締結しました。本センターと鹿児島地方気象台は、これまでも連携して、講演会や防災教育に取り組んできましたが、今回の包括連携協定では互いの資源や人材、機能を活用し、防災や災害の課題解決を目指すことから、さらなる連携協力の強化が期待されます。



3. 教育・学生関係

(1) 「学生によるオレンジリボン運動」オンライン報告会



本学大学院保健学研究科助産学コース1年生は、認定特定非営利活動法人児童虐待防止全国ネットワークが主催する学生によるオレンジリボン運動活動に参加し、63校の参加者から2月19日に行われた、「学生によるオレンジリボン運動」オンライン報告会4校に選出され、表彰されました。この活動を通して、私たち自身が、児童虐待防止について深く考える機会になったとともに、よりオレンジリボン運動の普及の必要性を感じる事ができました。今後も私たちが常に、虐待の早期発見と予防の視点を持ち続け、子どもたちの明るい未来を守ってまいります。



(2) 全日本大学駅伝対校選手権大会出場



本学陸上競技部は、学長へ秩父宮賜杯第55回全日本大学駅伝対校選手権大会への出場決定を報告しました。これは、5月28日に福岡県で行われた九州地区選考会において本学が1位となり、39大会ぶり9回目の本大会出場を決めたことから行われたものです。



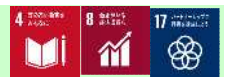
(3) 「まちづくり論」「市長と語る会」開催



法文学部では、法文アドバンスト科目Ⅰ「まちづくり論」において、下鶴鹿児島市長をお招きし、学生との意見交換を行う「市長と語る会」を開催しました。同科目の講義は政策の概説でとどまるものではなく、鹿児島市の各政策担当課の職員に現実の問題点や課題についての講義を行っていただき、学生がそれらの処方箋となるアイデアの提供を行うことが特徴です。リアルな行政に触れて沢山学び、これからの鹿児島を若さと豊かな感性で盛り上げてくれることが期待されます。



(4) 「県内の若手経営者と学生のワークショップ」開催



鹿児島県内の高等教育機関に加え、国の機関や地方公共団体、産業関係団体及び各種団体で構成する「大学地域コンソーシアム鹿児島」では、鹿児島県商工会議所連合会・岩崎育英文化財団との共催で、初めての取組み「県内の若手経営者と学生のワークショップ」を開催しました。本イベントは、県内の学生に県内のキラリと光る企業や若手経営者について理解を深め、鹿児島でのワークライフの魅力を感じてもらうとともに、県内就職を視野に入れたキャリア形成を図ることを目的に、「地域連携・就業部会」が運営を担いました。



(5) 国体等観戦・観光ガイドブック完成報告の市長表敬訪問



法文学部人文学科多元地域文化コースで人文地理学を学ぶ4年生5名（小林善仁ゼミ）と引率教員2名が、かごしま国体・かごしま大会の観戦・観光ガイドブック『かごまのトリセツ』の完成報告のため、鹿児島市の下鶴隆央市長を表敬訪問しました。



(6) 理工系進路を目指す女子中高生のためのワークショップ開催



文部科学省の学校基本調査（令和2年度）によると、鹿児島県の大学進学率は全国で下から2番目に低く、令和3年春の女子の大学進学率は都道府県別で最も低い34.6%という報告がある（東京は74.1%）。この地域と性別による二重の格差の原因として、女子中高生が理工系進路を積極的に選択するために必要な情報が不足していたり、進路選択に対する保護者・教員のアンコンシャスバイアスが根強く存在したりすることが挙げられます。

そこで今回のワークショップでは、午前中に専門分野で生き生きと活躍する企業人（女性）の講演をおこない、昼食時間は学食体験をし、午後からは科学や技術に実際に触れていただくために4分野（化学、生物、宇宙、電子工学）の体験実験を実施し、農学部、理学部、工学部、医学部の教員や大学生・大学院生と共に将来を考える機会として座談会形式のワークショップも企画しました。



(7) 親娘でスクラッチプログラミング



理学部はSDGsの「質の高い教育をみんなに」と「ジェンダー平等を実現しよう」の達成のため小中高校生徒向け、親子向けの各種理科講座開催に取り組んでいます。特に、女子の多様な進路選択を可能にするため、小学女子と保護者をペアとして、ロボットプログラミングやゲームプログラミングを実施、参加親娘に理系進路選択ができることの「気付き」の教育支援活動を進めております。



(8) 令和5年度学長と学部新入生との懇談会開催



「令和5年度学長と学部新入生との懇談会」を開催しました。この懇談会は、学長自らが学生の入学後からの現在の状況や将来に向けてどのようなことを学びたいかなどを聞くことによって、今後の大学運営に役立てることを目的として実施しており、各学部から15名の学生が出席しました。



(9) 第62回鹿大祭開催



11月10日から12日にかけて、テーマを「新たな空へ翔びたとう！創造の翼をひろげて」として第62回鹿大祭を開催しました。新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けて、模擬店は昨年度より2割増の個性あふれる94店が出店しました。



(10) 地域密着型パイロット人財創出プログラムの3期生決定



地域密着型パイロット人財創出プログラムにおける、第3期生が決定しました。同プログラムは、本学、日本航空株式会社（JAL）、日本エアコミューター株式会社（JAC）の3者による連携協力協定に基づくものです。鹿児島県を中心とした地域航空を永続的・安定的に支えていくため、パイロットを目指す人財の裾野の拡大・発掘・育成を目的としています。



(11) 「進取の精神学生表彰」優秀賞等決定



本学の学生憲章の趣旨に即し、困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を実践し、優れた活動実績や業績等を収めた学生及び学生団体を表彰するもので、平成23年度から実施しております。なかでも、極めて顕著な成果等を認めた表彰者については、本委員会にて選考の上、学長から最優秀賞等を授与することとなっております。

発表者	タイトル
小瀬 日奈子さん	「COVID-19パンデミックの脅威にオール鹿児島で立ち向かう！ ～南大隅町産ホーリーバジルから新型コロナウイルス感染症の治療薬候補化合物を発見～」
土元 香菜子さん	「難治性てんかんの脳機能ネットワーク解析」
宮島 里佳さん	「鹿児島県内プロイラー由来Campylobacter jejuniの ギランバレー症候群発症リスクと遺伝的特徴」
鹿児島大学学生会弓道部	「今年度の飛躍とその過程について」
鹿児島大学チーム（工学部）	「Chemical-Energy-Car Competition 2023優勝までの道のり」
末松 龍馬さん（少林寺拳法部）	「少林寺拳法と共に歩む」



(12) 進取の精神チャレンジプログラム成果発表会開催



進取の精神チャレンジプログラム「一般部門」「地方創生活動部門」の成果発表会を開催しました。本プログラムは、学生自らが企画・運営・実施する様々な活動に対する支援事業として平成25年度から始まった企画で、平成28年度には、学生が県内自治体や企業などと連携した地域貢献活動を支援するため、新たに「地方創生活動部門」を創設しました。各部門において審査を経て採択された8つのグループが大学や県内などのフィールドにおいて、課外活動や地域貢献活動に資する取組を積極的に展開しました



部門	賞	団体名	プログラム名
一般部門	最優秀賞	プライマリーケアサークルK A A N	子どもに関わる大人の会
	優秀賞	理学部中川研究室	世代間で共有する戦争遺児の体験談
地方創生部門	最優秀賞	鹿児島大学医歯学総合研究科地域医療学 分野	JA×鹿児島大学 健康まちづくり薬膳プロジェクト
	優秀賞	学生団体のらねこ（鹿大支部）	うみねこ 2023 夏



4. 研究関係

(1) 惑星はいつ誕生するのか 惑星形成の最初期段階を捉える



本学大学院理工学研究科の高桑研究室は、台湾中央研究院の大橋博士を中心とする国際研究グループと共同で、地球の近傍に位置する、星形成開始から1-10万年程度の初期段階にある19の原始星について、アルマ望遠鏡を用いてこれまでにない高い解像度で周囲の円盤を観測し、円盤の詳細な構造を系統的に調べました。今回の結果から、惑星系形成は中心の恒星の形成開始10万年後から100万年後ぐらいにかけて急速に進むと考えられ、惑星形成の最初期段階を捉えた本研究は「惑星系がいつ形成されるのか」という問いへの理解を深めるものです。今回の観測は、アルマ望遠鏡の0.04秒角という非常に高い空間分解能に加え、アルマ望遠鏡が『大型プログラム』という、長い観測時間をかけて数多くの天体観測が実行できる制度を導入したことにより、初めて可能となりました。



(2) 地域中核大学イノベーション創出環境強化事業に採択



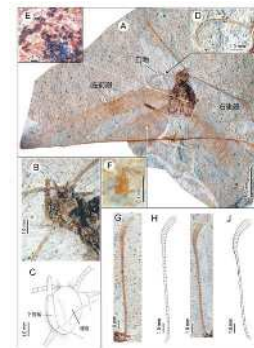
本学はこの度、内閣府「令和5年度地域中核大学イノベーション創出環境強化事業」に採択されました。本事業は、大学へ社会実装を担う官庁や自治体の自主財源事業からの資金獲得実績等に応じたインセンティブとなる資金を配分することで、大学の地域ニーズに即した社会貢献活動を推進するとともに、地域行政や産業界からの投資誘発により大学の財源多様化を進め、経営基盤の強化を促すものです。本学は、これまでに推進してきた地域連携の実績に加え、日本屈指の畜肉生産地帯という地域の特色を踏まえた研究・教育・産学官連携拠点「南九州畜産獣医学拠点」における獣医師の養成、畜産業の振興策及び九州内の製造業を中心とした産学官連携によるサーキュラーエコノミー実証研究拠点「Circular Park 九州」における循環型社会の構築等の構想が評価されました。本事業によって「南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点」としての価値を高めるとともに、鹿児島県をはじめとする南九州域を中心になお一層、地域に貢献してまいります。



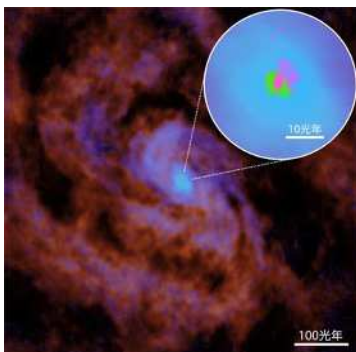
(3) 日本初350万年前のチョウの新種の化石報告



本学農学部坂巻教授は、慶應義塾幼稚舎の相場教諭、高橋教諭らと共同でタテハチョウ科ミスジチョウ属のチョウの化石を新種として報告しました。日本から新種のチョウ化石が報告されたのは初めてです。ミスジチョウ属の化石は世界初の報告であり、また鮮新世という時代の新種のチョウ化石も世界初で、世界で最も新しい時代のチョウの絶滅した化石種となります。



(4) 超巨大ブラックホールの成長メカニズムと銀河中心の物質循環



本学の和田桂一教授、国立天文台の泉拓磨助教を中心とする国際研究チームは、アルマ望遠鏡を用いて、近傍宇宙にあるコンパス座銀河を約1光年という非常に高い解像度で観測し、太陽の200万倍もの質量の超巨大ブラックホール周辺のプラズマ・原子・分子の全てのガス相の流れを観測しました。その結果、超巨大ブラックホールへ向かう流れ（降着流）の存在が世界で初めて明確にとらえられました。



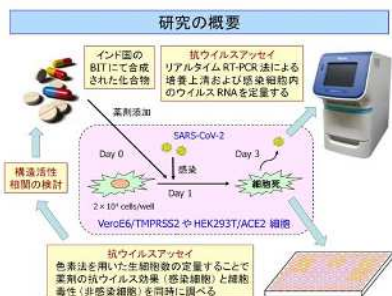
(5) 奄美日本復帰70周年記念講演会と巡回写真展開催



奄美の日本本土復帰70周年を記念し、70年前の奄美の風景を米文化人類学者が撮影したカラー写真の巡回写真展を12月23日より行いました。写真展を記念した記念講演会を、12月23日に奄美大島アマホームPLAZAで開催しました。講演会には約200名の島民の参加があり、70年前の風景から見た奄美や家族に対する思いや今後の奄美への期待などを語り合い、大盛況に開催されました。



(6) 抗新型コロナウイルス薬開発に関する特許出願



本学の先端科学研究推進センター・感染制御研究部門岡本特任教授は、インド・ビルラ工科大学（BIT）化学科と共同で、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）に対する新規抗ウイルス薬の開発に取り組んできました。同部門におけるバイオセーフティーレベル3（BSL3）の設備を用いた研究により、新規ピリドンカルボン酸誘導体が細胞培養においてSARS-CoV-2の複製を強力に阻害することが示されました。この誘導体は、既存の抗SARS-CoV-2薬とは異なる作用機序を持つ可能性が高いことも分かりました。

これらの成果を踏まえ、本学では「抗SARS-CoV-2薬」の発明について、2024年2月19日に特許出願を完了しました。

鹿児島大学では、今後もBITとの共同研究を継続し、より高い抗ウイルス活性を有する誘導体の同定を試みるとともに、それらの作用機序やin vivoでの有効性、毒性、薬物動態などを明らかにし、臨床開発の可能性を探っていく予定です。



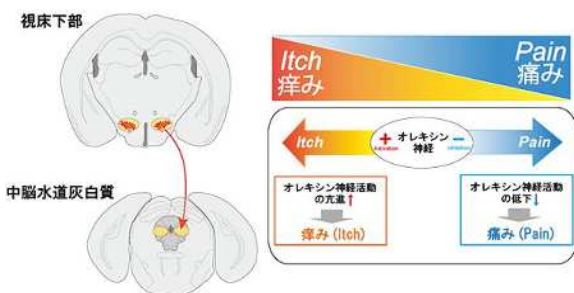
(7) 新属新種の植物「ムジナノシヨクダイ」発見



本学総合研究博物館の田金准教授と神戸大学大学院理学研究科の末次教授・福岡県の中村氏・京都大学大学院理学研究科の中野准教授からなる研究グループは、鹿児島県の大隅半島の肝属山地から既知のどの属とも異なる特徴をもつタヌキノシヨクダイ科の植物を発見し、新属としてムジナノシヨクダイ属 *Relictithismia* を設立し、その新種としてムジナノシヨクダイ *R. kimotsukiensis* を記載しました。植物の戸籍調べが世界でも最も進んでいる日本において未知の植物が新属として記載されるのは極めて稀で、今回の研究成果は日本の植物史の中で、歴史的な意義を持つものと言えます。



(8) 痒みと痛みを逆方向に制御している神経回路解明



視床下部から中脳水道灰白質へと投射するオレキシン神経が痒み (Itch) と痛み (Pain) を逆方向に制御している

大学院医歯学総合研究科 統合分子生理学分野、生化学・分子生物学分野、皮膚科学分野の共同研究グループは、光遺伝学的手法と搔痒・疼痛モデルマウスを用いた実験により、痒みと痛みを逆方向に制御している神経回路を明らかにしました。本研究により、なぜ痒みと痛みが互いに打ち消し合うという不思議な相互作用を持つ感覚であるのか？という疑問に対して、その答えを担う神経制御機構の一端が解明されました。本研究の知見は、新たな視点からの鎮痛薬や鎮痒薬の新薬研究開発につながることを期待されます。



(9) 新型コロナウイルス感染症治療薬の特許の各国移行



先端科学研究推進センター・感染制御研究部門の岡本部門長、馬場特任教授は、共同研究成果に基づき、「新型コロナウイルス感染症治療薬」に関する特許について、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）から米国移行への支援が決定した旨の通知がありました。両大学は日本、米国、中国、欧州への各国移行を進めるとともに、本発明に興味を示す製薬企業との共同開発研究の可能性を探る予定です。

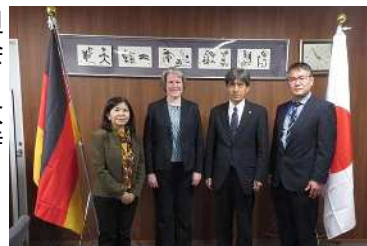


5. 国際関係

(1) ドイツ・フェヒタ大学長表敬訪問



ドイツのフェヒタ大学のベリーナ・ピーツナー学長が来日し、郡山国際交流担当副学長、有倉教育学部長を表敬訪問しました。フェヒタ大学は、キリスト教会教師を養成する学校を前身とする、北ドイツにある大学であり、現在は初等学校・中等学校の教員の養成を中核としています。今後、フェヒタ大学と鹿児島大学教育学部の教員が協働して、持続可能な社会の形成を支える教育の在り方、特に、質の高い教師の育成に向けた教育研究プロジェクトに取り組みます。



(2) 駐日パラオ共和国大使館特命全権大使ら訪問



パラオ共和国のピーター・アデルバイ駐日パラオ共和国大使館特命全権大使、クリスチャン・エピソン・ニコレスク駐日パラオ共和国大使館次席・公使参事官、Mayce Ngirmeriil巡視船ケダム号船長らが、4月18日に本学水産学部附属練習船がごしま丸を訪問しました。



(3) 2023年度JICAナイジェリア国別研修実施



ヒトレトロウイルス学共同研究センターは、国際協力機構（JICA）の「公衆衛生上の脅威の検出及び対応強化プロジェクト」の一環として、ナイジェリア疾病予防センター（Nigeria Centre for Disease Control : NCDC）の公衆衛生検査部門（NRL、CPHL）の責任者5名を対象にバイオセキュリティ・バイオセーフティ研修を実施しました。



(4) 日独学校教育オンラインセミナー開催



両国の教育制度や教師教育の現状や課題に関する活発な意見交換が行われました。意見交換では、現在ドイツでは教員を希望する人が減少していることが、現在直面している大きな課題であることやそれを改善するための取り組みが大学や教育委員会で模索されていることが話題とされ、それらは、日本が直面している課題でもあるという問題意識が共有されました。また、日本の教師の指導力改善に向けた取り組みである授業研究は、ドイツの学校では見られないような取り組みであるということで、大きな関心を集めました。



(5) ILPサマーセッションの開講式実施



大学院農林水産学研究科ILP (International Linkage Programme on Tropical Fisheries) サマーセッションの開講式が開催されました。プログラムの実施にあたっては、独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO) の2023年度海外留学支援制度の支援を受けています。



(6) 外国人特別研究員による教育実習視察



9月1日から30日の期間、日本学術振興会外国人研究者招へい事業にて、ドイツのカール・フォン・オシエツキー大学オルデンプルクのメリーナ・ドイル氏が日本の教師教育を研究するために、鹿児島大学に滞在されました。現在ドイツでは、経済協力開発機構 (OECD) による学習到達度調査 (PISA) の影響を受けて、資質・能力の育成、学力の向上を目指した教育改革が進められおり、PISA調査で上位に位置する日本の学校教育は興味深い対象として見られているようです。12月には、教育学部の教員や教職大学院の学生がドイツを訪問して、ドイツの学校や教育実習の実際を視察することも計画されています。



(7) マレーシア大使館政府派遣学生担当官が工学部と理工学研究科訪問



鹿児島大学は、令和5年11月1日付時点でマレーシアから政府派遣留学生6名を含む11名を受け入れており、そのうちの8名が工学部及び理工学研究科に所属しています。

イムラン参事官から政府派遣留学生受け入れの謝辞が述べられた後、山口明伸理工学研究科長、留学生担当教員・事務及び国際事業課の担当者を経て留学生の学業や普段の生活の様子などについて意見交換を行いました。



(8) 協定校派遣留学生による帰国報告会開催



12月13日、学習交流プラザ・学習交流ホールで、協定校に派遣留学をしていた学生たちによる帰国後の報告会が開催され、派遣留学や海外での活動に関心がある学生や教職員など75人が参加しました。



(9) 2023年度後期短期派遣留学生対象にレセプション開催



教育学部は、12月4日に2023年度後期短期派遣留学生を対象としたレセプションを開催し、留学生8名、チューターを含めた教育学部生10名、教育学部教職員12名が参加しました。

本レセプションは、大学間（部局間）国際学術交流協定を締結している協定校からの留学生と、教育学部教員及び教育学部生との交流を目的として開催するもので、今回が2回目の開催となりました。参加者は多様な文化に触れることができ、国際色あふれる大変有意義なレセプションとなりました。



(10) 国立大学法人等留学生センター長・留学生課長等合同会議開催



郡山副学長（国際担当）による開会挨拶

令和5年度全国国立大学法人等留学生センター長及び留学生課長等合同会議が、鹿児島大学の当番で、11月30日にオンラインで開催されました。

会議には、86の国立大学と、文部科学省、日本学生支援機構、国大協から185人が出席しました。



(11) 中国 雲南農業大学副学長一行表敬訪問



大学間学術交流協定校である中国 雲南農業大学一行が佐野学長を表敬訪問しました。

今回の訪問は、雲南農業大学と本学が1989年の協定締結から来年で35周年を迎えるにあたり、両大学の今後の教員及び学生交流の一層の発展に向けて協議するために、魏副学長（本学連合農学研究科修了）をはじめ、朱耀順対外協力交流部長、李建宾農学・生物工学部長（本学連合農学研究科修了）、郭关柱機械電気工学部教授、卿玉波動物学部副研究員が来日し、実現したものです。

35周年記念イベントに向け農学部を中心に対応を検討することが確認され、今後の交流がさらに深まることが期待される、大変有意義な機会となりました。



(12) 清華大学一行訪問



中国・清華大学一行が鹿児島大学を訪問

今回の本学訪問は、京セラ創業者稲盛鹿児島大学名誉博士が2009年6月に清華大学において行った講演をはじめとする稲盛経営哲学への強い関心から、両大学による稲盛研究を起点とする学術交流や人的交流の可能性についての要請を受けたものです。

清華大学副学長一行が学長を表敬訪問

清華大学は2013年に鹿児島県との間で締結した包括交流協定を昨年8月に更新し、新たな協定の下で、本学との大学間交流を強化したいとの意向を有しています。今回の楊副学長の訪問は、この間の進捗と今後の方向性について確認することを目的としたものです。両大学の交流開始に向けた意向確認書（Letter of Intent, LOI）への調印が行われました。本LOIに基づき、今後協定締結および交流開始に向けた交渉が進展することが期待されます。



(13) 欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）のステファン・マルチノ会長が学長表敬訪問



欧州獣医学教育機関協会（EAEVE; European Association of Establishments for Veterinary Education）のステファン・マルチノ会長が、佐野 輝学長を表敬訪問しました。

今回の訪問は、共同獣医学部が2019年に取得した欧州獣医学教育機関協会の国際教育認証の再認証受審（2025年秋）に向けて継続的な教育システムの改善を進めるため、マルチノ会長に共同獣医学部内の施設設備や教育カリキュラム等の改善点、さらには新設した南九州畜産獣医学教育研究センター（＝SKLVセンター）の学部教育への活用についての助言等を申し入れたことから来学が実現したものです。



6. 医療・病院関係

(1) 鹿児島県と「感染症専門医養成講座」の協定書締結



鹿児島県からの寄附により設置する「感染症専門医養成講座」の設置に関する協定書を締結しました。本講座は、鹿児島県からの寄附により大学院医歯学総合研究科に設置される講座であり、講座終了後は、大学病院に感染症科を設置し、引き続き感染症専門医を養成していく予定としています。

佐野学長は「この講座において、4年間で、新たに6名の感染症専門医を養成するとともに、これまで以上に、地域連携による県内感染防御体制の強化に貢献していきたい」と抱負を述べました。



(2) 令和6年能登半島地震に係る被災地派遣



令和6年能登半島地震被害に伴い、鹿児島大学病院は、災害派遣精神医療チーム（DPAT）、災害時感染症支援チーム（DICT）、災害派遣医療チーム（DMAT）、日本医師会災害医療チーム（JMAT）日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）を派遣しました。



(3) 鹿児島大学病院外来診療棟・病棟（A棟）竣工記念式典・祝賀会開催



鹿児島大学病院では、「21世紀に輝くヒューマントータルケア病院」を目指し、平成17年度から病院再開発計画に着手してまいりました。

このたび、外来診療棟・病棟（A棟）が令和6年1月に竣工したことを記念して、3月9日に竣工記念式典・祝賀会を挙行了しました。本院の敷地のほぼ中央に位置し、手術部のある中央診療棟や救急集中治療棟、病棟（B棟・C棟）等との連携を図り、病院機能を強化する役割を担います。

鹿児島大学病院は、外来診療棟・病棟（A棟）竣工を新たなスタートとし、次の50年へ向けて、使命と情熱を持って、信頼され安心して受診いただける病院を目指して参ります。



7. その他

(1) 鹿児島大学OB・OGゴルフ大会実行委員会より寄附受領



鹿児島大学OB・OGゴルフ大会実行委員会の岩元 善巳委員長、田代 博文副委員長が本学を訪れ、第42回OB・OGゴルフ大会の参加費の一部を賛助金として贈呈いただきました。



(2) 「鹿児島の近現代」連続トークイベント開催



法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センターは、7月2日、天文館図書館にて「鹿児島の近現代」連続トークイベント「#鹿児島の女性01」を開催しました。同センターは、年間を通して1つのテーマについてのトークイベントを隔月で開催します。2023年度のテーマは「#鹿児島の女性」です。



(3) 鹿児島大学ダイバーシティセミナー インクルーシブキャンパスに向けて～性の多様性(SOGIE)の視点から～開催



ダイバーシティセミナー インクルーシブキャンパスに向けて」第2回セミナーは、「性の多様性(SOGIE)の視点から」と題して8月10日に開催されました。

講演は、SOGIEに関する基本的知識や大学において配慮すべき点、関連裁判例や法令の紹介を交えた内容で、「大学が安全な居場所になるように」というメッセージに参加者は聞き入った様子でした。



(4) 第14回コクダイパン会議開催



第14回国立大学一般職員会議（通称：コクダイパン会議）が郡元キャンパスの学習交流プラザで開催されました。

同会議は、国立大学法人等の今後を担う一般職員（係員・主任級の職員）を対象に、自己研鑽の機会となること、また、参加者相互の協力や意見・情報交換のための人的ネットワークを構築・拡大することを目的として平成19年に設立され、全国各地の大学を会場として年に1回開催されています。

第14回となる今回は、「Reboot コクダイパン！」をテーマに、一度途絶えてしまったコクダイパン会議の歴史を再起動（Reboot）し、各々が抱える不安や悩み、危機感を共有しながら課題を解決することで、コロナ禍で希薄になった一般職員同士のつながりを再構築することを目指し、グループワークやワールドカフェなどを通じて参加者同士の交流や意見・情報交換が活発に行われました。



(5) 令和5年度 鹿児島大学ダイバーシティトップセミナー開催



令和5年度鹿児島大学ダイバーシティトップセミナーを開催しました。本セミナーは「ダイバーシティ加速化に向け具体的な取組に必要なこと～岩手大学の取組事例を参考に～」を演題として行われたものです。

ダイバーシティを進めていくにはこれまで以上に女性活躍を進めていく必要があると力強く話されました。さらには、全学的なダイバーシティ推進を加速化するには、学長のトップリーダーシップが重要であり、特に地方国立大学においては大学としていかに本気で進めていくかを示す必要があると、これまで岩手大学のキーパーソンとしてダイバーシティ推進に取り組んできた講師ゆえの実質的で具体性のある講演内容となりました。



(6) 安全保障輸出管理に関するトップセミナー開催



本セミナーは、安全保障環境が一層深刻化するとともに、大学における核開発安全保障に関連する機微技術の流出の懸念がますます高まっている中で、安全保障輸出管理に対する構成員の更なる意識啓発を図ることを目的として開催したものです。

令和4年5月1日外為法改正に伴うみなし輸出管理の明確化を中心に、大学における安全保障輸出管理体制等のあり方について、本学教職員のみなし輸出管理をはじめとする安全保障輸出管理に関する理解を深めるとともに、研究インテグリティの確保に資する有意義な機会となりました。



(7) 令和5年度「学長と教職員との懇談会」開催

鹿児島大学男女共同参画推進センターでは、『鹿児島大学サポート宣言の充実に向けた「誰もが働きなくなる職場環境づくり」について』をテーマとして、佐野輝学長と教職員との懇談会を開催しました。介護・育児と仕事との両立やテレワークの実施状況、業務効率化や業務改善による働き方改革などを中心に活発な議論が行われました。

鹿児島大学サポート宣言項目3で掲げている教職員の現場の声に耳を傾ける、大変有意義な機会となりました。

教職員のライフワークバランスを応援する
鹿児島大学サポート宣言

1. 公的な会議は、原則として17時までに終了します。
2. 出産・育児・介護等に携わる者へは、特に勤務形態(テレワーク等)・勤務時間の配慮を行います。
3. ライフワークバランスに関する懇談会や意見交換会を定期的に開催し、現場の声に耳を傾けます。

※本ポスターは、学長が発表した「誰もが働きなくなる職場環境づくり」を視覚化したものです。



(8) 鹿児島大学×SDGsシンポジウム2023



「鹿児島大学×SDGsシンポジウム2023」を開催し、本学の学生、教職員、一般市民等計249名(うちオンライン117名)が参加しました。本学が「持続可能な社会の実現」に向けて果たすべき役割を再確認することを目的として開催したシンポジウムは、佐野輝学長の開会挨拶に続いて、第1部では、世界の未来モデルとなる「サーキュラーヴィレッジ・大崎町」を目指している曾於郡大崎町の東靖弘町長が特別講演。東町長は「大崎リサイクルシステム*」を活用した「循環型社会」の実現を目指した多岐にわたる取組のほか、内閣府の「SDGs未来都市」大崎町の町を挙げてのSDGsの達成に向けた先進的取組や将来構想を披露されました。



(9) 南九州畜産獣医学拠点開設記念式典挙行



2024年4月にオープンする曾於市の南九州畜産獣医学拠点（通称SKLV＝スクラブ）の開設記念式典が、3月9日、曾於市の旧鹿児島県立財部高等学校跡地に整備したSKLV内の施設で盛大に挙行政されました。

SKLVにおいて、その中核となる共同獣医学部附属南九州畜産獣医学教育研究センターを設置し、全国の獣医系大学が抱える産業動物の獣医学教育の実習先不足を解消するため、全国から獣医学部生を受入れ、産業動物の臨床獣医学と動物衛生学に関する欧米水準（欧州獣医学教育機関協会＝EAEVEの認証）の参加型実習プログラムや、我が国の畜産を支える産業動物獣医師の技能向上に資する自己研鑽プログラムを提供します。また、地域の畜産農家や企業等の産業動物疾病予防制御の高度化や地域診療等を通じて、疾病に強い地域畜産の発展や交流人口創出による地域の活性化にも貢献します。



(10) 学生企画による鹿児島大学SDGs活動推進オリジナル動画制作



「オール鹿大」でSDGs達成の推進に取り組むことを目標としており、当該取組の一環として動画を制作いたしました。

■動画視聴リンクはこちら
(鹿児島大学SDGs特設サイト)
※上記サイトのトップ画面に掲載



8. 広報関係（広報全般・入試広報等）

(1) 広報誌「鹿大ジャーナル」のご案内

「鹿大ジャーナル」は、鹿児島大学広報センターが発行する広報誌です。

特色ある本学の教育・研究・社会貢献活動や学生の現状などの情報を広くわかりやすく一般に紹介することを目的とし、年に3回発行しています。

幅広い大学の取組、学生の活躍や卒業生からのメッセージなど、様々な情報を発信していますので、是非ご覧ください。

(<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kadaijournal.html>)



(2) 【広告】 新発売！「さつつんサブレ」のご案内



「手土産に持っていけるような鹿児島大学のお菓子があれば...。」そんな声にお応えし、オリジナル商品「さつつんサブレ」が遂に誕生しました！

商品は本学インフォメーションセンター・風月堂山形屋店で取り扱いのほか、風月堂各店舗などでの一般向けの販売も予定しております。♫ お見かけの際はぜひお買い求めください。



(3) 受験生向けウェブサイト「どこでもKADAIドア」

鹿児島大学は、受験生の皆さんに対する効果的な情報発信を目的とし、2021年8月に受験生向けウェブサイト「どこでもKADAIドア」を開設しました。

受験生のための「どこでもKADAIドア」

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/exam/kadaidoor/>

鹿児島大学は、県内離島地域からの進学促進のための様々な取組を行っているところです。このような取組に関する情報の充実を求める声があったことから、上記「どこでもKADAIドア」の中の1コーナーとして、特に県内離島地域受験生への情報提供を目的とする「島からKADAIへ」というページを2022年3月に設けました。

「島からKADAIへ」

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/exam/kadaidoor/island/>



(4) 「飲み比べま焼酎」を数量限定発売

ご自宅などで手軽に飲み比べを楽しんでいただける300ml×3本のセット、「飲み比べま焼酎」を制作しました。

同商品は、100セット限定で、9月28日より、インフォメーションセンターにて販売を開始いたします。

ご自宅用はもちろん、手土産としてもぴったりの商品となっておりますので、ぜひこの機会にお買い求めください。



9. 基金・決算関係

(1) 鹿大「進取の精神」支援基金について

鹿大「進取の精神」支援基金は、2015（平成27）年4月に創設し、大学全体で各種の教育・研究活動に幅広く活用させていただく一般資金と、修学支援事業基金や学部等支援基金など用途を特定した特定資金とにより構成されており、支援目的を選択してご寄附いただけます。

鹿大「進取の精神」支援基金は、多くの皆様にご支援いただき、学生・研究等への支援に活用させていただいています。

鹿大「進取の精神」支援基金について詳しくはこちら→



税制上の優遇措置や入金確認、寄附金領収書等に関するお問い合わせ先はこちら→

